

# 博物館だより

No.219

令和7年2月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行  
福岡県京都郡みやこ町豊津 1122-13  
TEL 0930-33-4666  
FAX 0930-33-4667

博物館休館日カレンダー  
2025年2月

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	1

休館日 ※情報はR7.1.22現在

今年もみんなで賑やかに！

## みやこの里に春が来た！ みやこ町三重塔まつり



みやこ町内外に春の到来を告げる名物行事として親しまれてきた「みやこ町三重塔まつり」。今年も三重塔をはじめ故郷の歴史・文化を愛する皆さんにより賑やかに開催されます。早春のひと時、三重塔周辺でゆっくりと春を堪能しませんか？

日時：2月23日(日) 10時～15時／場所：豊前国分寺跡公園(みやこ町国分)



### ★★★ 主な催し物 ★★★

- 三重塔まつり少年少女俳句大会表彰式 10:00～ 於：三重塔前広場
- 一般俳句大会(投句および選評) 10:00～ 於：会場内受付・国分公民館
- 文化財行事：護摩焚き行事(山伏問答・火渡りなど) 13:00～ 於：特設護摩壇周辺
- 出店(焼いも・おでん・豚汁・地元特産品の販売など) 10:00～ 於：会場内出店テント

### まつりについてのお問合せ先

みやこ町三重塔まつり実行委員会(事務局：文化係／博物館 電話：0930-33-4666)



▲ボランティア・ガード編の様子 博物館友の会と協力して町を代表する文化遺産・三重塔のすす払いを行いました

★文化遺産ボランティア(豊み隊) 養成講座  
町の宝を三つのアクション①ガイド(案内)②ガード(管理)③ワーク(調査)でサポートするスタッフを募集・養成する講座です。

★博物館友の会  
バスハイク・歴史たんけんウォーク等の学びの旅やイベントに参加できます。

博物館は郷土資料と学芸員らのサポートによる知と学びの拠点です。以下の会や講座を利用して楽しく学びませんか？詳しくは博物館へお問合せ下さい！

### 博物館で「楽習」始めませんか？

※日程等変更となる場合があります。  
※見学会等は別途ご案内します。

- ◆講座・教室・催し物ガイド
- 2月の歴史講座
- 【漢詩紀行講座】  
2月1日(土) 9時30分～
- 【古文書講座】  
2月8日(土) 13時30分～
- 【古典かな講座】  
2月15日(土) 9時30分～
- 【みやこ学講座】  
2月15日(土) 13時30分～

## 12月の業務日誌から

12月18日(水)、8月に博物館実習を行った土田善樹さん(八洲学園大学)が、成果となる学芸員資格取得証を手にお礼報告に見えました。リカレント学習の成果を活かした活躍を期待したいですね。

12月21日(土)、漱石山房記念館(東京都)へ貸出していた小宮豊隆資料が返却されました。お蔭さまで東京と福岡で同時に小宮豊隆ゆかりの展示が見られるという贅沢な企画が無事終了しました。



▲長旅を終えた資料たちはこの後取蔵庫で暫くお休みします



▲土田さんは既に文化遺産ガイドを実践中とのこと スゴイ!

# みやこの歴史発見伝 173

## 「折り鶴が運んだ 平和の木」②

### ウクライナ軍事侵攻から3年

今月24日で、ロシアによるウクライナの軍事侵攻から3年を迎えます。この間、ロシアは、戦況の泥沼化に伴い核兵器の使用を示唆しています。

また原子力発電所を攻撃する状況も放映されました。核兵器使用の緊張が最高潮に達している状況の中、昨年12月に日本原水爆被害者団体協議会（以下日本被団協）がノーベル平和賞を受賞しました。この協議会は、原爆投下から11年後に、広島・長崎の被爆者を中心に結成され、世界各国の人々を対象に、被爆者の立場から実体験に基づく証言で核兵器の恐ろしさを伝えてきました。朝鮮戦争以降も様々な戦争や紛争で核兵器使用の危機的場面がみられましたが、日本被団協による地道な活動は、戦争当事者に「人類史上最も破壊的な兵器」の使用を躊躇させ、その結果、長崎の原爆投下以降、約80年間、戦争や紛争で核

兵器が使用された事例は確認できません。日本被団協によるこれまでの核兵器廃絶運動がノーベル平和委員会により高く評価され、今回、約50年ぶりとなる日本のノーベル平和賞受賞につながったとみられています。

今回は、この日本被団協と同時期に、みやこ町を舞台に熱心な平和教育に携わってきた一人の教師についてご紹介いたします。

### 「昭和100年」と「戦後80年」

今年「昭和100年」の節目の年にあたります。元号「昭和」はみやこ町勝山上田出身の吉田増蔵が考案した元号です。「昭和」は、中国最古の歴史書「書経」にある「百姓昭明、協和万邦」（全ての人民は明るく、国は和やかに）を典拠としたもので、世界平和の願いが込められた元号でした。しかし、吉田増蔵の願いとは裏腹に、元号発表から15年後、日本は、歴史上、最も多くの犠牲者を記録する戦争へ突入します。この戦争は、はじめて多くの民間人を巻き込むものとなり、またこれまでにない多数の人々を殺傷する新兵器の開発が行われます。約4年に及ぶこの戦争に終止符を打つきっかけになったのが、人類史上初となる原子爆弾の投下でした。その対象となった広島・長崎では一瞬にして多くの人々を殺傷し、戦後80年を迎えた現在もなお、放射能による後遺症に苦しむ人々がみられるなど「悪魔の兵器」の残酷さを歴史に刻むことになりました。



犀川小学校の被爆エノキ2世



中尾廣治氏  
(みやこ町犀川出身)

### 犀川小学校の「被爆エノキ2世」

犀川小学校の一角に、高さ10mほどに成長したエノキの木があります。学校の風景に溶け込んでいるこのエノキの木は今から80年前の8月6日に広島に投下された原爆で被爆したエノキの木の2世です。広島県を除き「被爆エノキ2世」が所在するのは全国でも10か所ほどに止まります。犀川小学校を含めこれらの「平和の木」は、原爆の悲惨さを後世に伝えてほしいという願いを込め被爆エノキの苗木を学校に贈る活動を続けた広島市の「語り部」福田安次氏（2015年に91歳で死去）によって贈呈されたものです。

### 折り鶴が運んだ平和の交流

今から42年前の昭和58年（1983）5月、福田安次氏は広島の平和公園にある「風の中の母子像」に捧げられた1つの千羽鶴と添えられたリボンに「福岡県京都郡犀川町鑑畑小学校」と記された学校名に目を留めました。福田氏は「修学旅行に来てくれてありがとう」という手紙を当時の鑑畑小学校の児童に贈りました。その後、広島を訪問した鑑畑小学校5・6年生

7名の児童から感想の手紙が届き、この中には、担当教諭、中尾廣治氏の「お手紙をいただいて鶴が舞い戻ったような感激でございます」という礼状も同封されていました。昭和60年（1985）には福田氏を鑑畑小学校の卒業式に招待するなど心温まる交流が続ききました。当時、中尾氏は、町内校で平和学習に取り組んでおり、福田氏に「子ども達にあの日の惨状を伝えてほしい」と依頼します。鑑畑小学校の児童が修学旅行で広島を訪問した際、福田氏は自らの被爆体験を児童に語りかけますが、真剣に聴講する児童の姿勢や、送られた感想文は「語り部」としての福田氏の心の支えになったと伝えられています。

### 平和のシンボル

中尾氏が町内の黒田小学校や鑑畑小学校で教鞭を執っていた1980年代、アメリカ、ソ連（現在のロシア）の両国は、「抑止力」の名のもとで互いに核兵器の配備数を増大させ、世界の緊張は極限に達していました。このような状況の中、中尾氏は町内の児童や保護者を対象に核兵器の恐ろしさや平和の尊さを力説します。中尾廣治氏が入院した年、世界の核弾頭保有数はピークを迎え、約7万発に達します。これに対し日本被団協をはじめ世界各国で「核廃絶運動」が展開され、現在、世界の核弾頭保有数は約12,000発まで減少しているものとみられます。しかしこれらも「量より質」を重視した高性能の弾頭に更新されているものと推察され、その脅威はむしろ増大しているとの見解もみられます。日本被団協のノーベル受賞の前月、「被爆エノキ2世」がある犀川小学校と築上町の上城井小学校の児童が修学旅行で広島・長崎の被爆地訪問で学んだ平和学習について報告会が開かれ、平和への思いを新たにしました。被爆エノキを寄贈した福田氏が亡くなり、今年で10年を迎えますが、被爆エノキをシンボルとして、中尾氏や福田氏が託した「平和の祈り」は、これからもこの地域の人々に永く受け継がれていくことでしょう。

(井上信隆)